第23章 駐在員の生活と最近のトピックス

ここでは、トルコ進出済みの日本企業に対して行ったインタビューをもとに、駐在員の生活状況や留意点などについて概説する。

1. 生活環境・治安

生活環境については概ね良好であり、治安上も危険地域への立ち入りさえ行わなければ特段問題ないという声が寄せられた。2 年程度イスタンブールで生活をした駐在員によれば、日本と全く同じ生活ができないのは当然のことであるが、現地に順応しつつ様々な工夫をすれば特段の問題はないということであった

政治デモについては我が国でも報道されているところではあるが、暴徒化することは殆どなく、過度な心配は不要という声も聞かれた。一方、最近では警察が容易に催涙弾を発砲することが問題視されている。トルコでは、サッカーの試合の後も暴動が発生し、警察が催涙ガスを使用することが多かった。しかし、2013 年のデモ鎮圧の光景が世界中に報道されたことから、今後は警察側も配慮するとも考えられる。

また､治安については､数字だけをみると東京と比べて 2～3 倍程度の犯罪件数があるが、特定危険地域に集中しているため、こうした危険地域に立ち入らなければ、普通の生活を送れるという声も聞かれた。特に駐在員の住宅は治安のよい地域にあることから、家族で暮らしていて犯罪に巻き込まれる危険性を感じた駐在員は多くはないとのことである。

一方、トルコの市中では英語が通じない局面が多々あるため、トルコ語の習熟は必須であるとのことである。例えば、スーパーマーケットでの買い物や水道管の修理などでは、トルコ語でなければ対応が難しいという声も聞かれた。

2. 医療・健康

衛生状況は地域にもよるが、アンカラなどの内陸部では乾燥・低温の地域なので、疫病等の危険性は少ないとのことであった。仮に病気になった場合には、外国人患者を受け入れる病院に行けば、高度な医療を受けることが通例とのことである。また、イスタンブールなどの沿海部でも大都市では医療機関が整備されている。一方、小規模都市では外国人患者受け入れ態勢の整った医療機関は少ないため注意を要する。

3. 教育

イスタンブールにはヨーロッパ側に日本人学校（生徒数約 70 名）があり、他にもインターナショナルスクールが整備されている。一方、アンカラでは、日本人学校はない。アン

カラにはインターナショナルスクールが 3～4 校あるものの、定員が埋まってしまっていて、待機せざるを得ない場合もある。なお、現在、アンカラ在住日本人の就学年齢児童は百数十名程度。補習校の設定を、大使館も含めて検討しているところとのことであった。

4. 住居

インタビューを行った駐在員の多くは、民間のアパートに居住している者が多く、サービスアパートメントなどはないとのことであった。イスタンブールでは、就学児童がいる家族帯同者は日本人学校があるヨーロッパ側に居住することが多く、単身者はアジア側が多いとのことであった。

家賃については、かなり高額になっているケースも多く、ヨーロッパ側では月額 3,500～4,500 ドル近くする場合も数多くあるとのことである。一方、アジア側は環境が良い割に 2,000 リラ程度に留まるとのことであった。2008 年の経済危機以降、ヨーロッパ側からアジア側に引っ越した日本人駐在員も多いようである。

住居選定において注意すべきは、同じアパートの建物内であっても、部屋毎に大家が異なり、価格設定や賃貸条件に差異があることがある点である。このため、部屋毎に大家との交渉が不可欠であるとのことである。

その他生活費用についても、日本よりも高いものもある。シャツのクリーニングが手作業のため、一枚 500 円もするのが一般的とのことである。地下鉄も生活水準を考えるとやや高めである。

写真 15　イスタンブールの駐在員居住地区と公園

5. ドライバー・家事手伝い等

駐在員が専属のドライバーや家事手伝いを手配するかは、企業や駐在員によって異なる。例えば、駐在員による車の運転は禁止している企業では、運転手を雇うことを奨励している。運転手への支払いは月間グロスで 2,000 リラ程度（残業代除く）である。ドライバー

は残業代で稼いでおり、残業代を入れると 1.5 倍ぐらいになる。一方、企業によっては駐在員が自分で車を運転している場合も多々あるようである。家事手伝いについても同様であり、居住形態や生活スタイル、企業の方針等により、雇用の是非を検討すべき点である。

6. 食事

食事については、インタビューを行う中で「日本食が殆ど手に入らない」という声が数多く聞かれた。醤油や味噌などが入手できても、日本とは味が違ったり、高価であったりして、日本食の味を再現することが難しいようである。またイスラム教徒が多いため、豚肉の入手も容易ではないとのことである。

食品の輸入規制は厳しい状況であるが、政府間での調整が続いている。駐在員の話によれば、遺伝子組み換え食品の規制で、豆腐が手に入りにくくなったことがあったとのことである。その際には、スーパーで豆腐売っていたとしても一丁 14 リラ（約 700 円）もした。醤油についても価格は日本の 4～5 倍（ロンドンだと 3 倍程度）で販売されることが多い。

こうした状況の下、駐在員の中には欧州になどに出張に行った際にまとめて調達する者もいる。また、大企業の中には、会社でまとめて日本食材を日本から調達する企業もある。

外食についてもレストランの数は多いが種類はあまり多くないとのことである。例えば、イタリアンレストランはある程度あるが、中華は豚肉が使えないこともあって少ない。日本食レストランも数は多くはないが存在する。日本食レストラン経営の食材店では冷凍のさしみや加工品も販売している。ただし、価格についてはランチで 30～50 リラはかかる。地元企業との接待には、ボスポラス海峡沿いの魚介類レストランが好まれ、お酒も入ると一人 200～300 リラぐらいはかかる。

現政権になってから、缶ビールが 1 リラから 6 リラに値上がりした。煙草も 2 リラから 5 リラに値上がりした。RAKI（トルコの蒸留酒）ですら 40 リラ近くに値上がりしている。

こうした点がある一方で、トルコ料理は世界三大料理のひとつであるため、トルコ駐在中にはトルコ料理を楽しむというのも生活の一つのあり方であろう。

写真 16　トルコ料理の例（左：サチカブルマ、右：ドネルケバブ）

写真 17　大規模ショッピングセンターと日本食材コーナー、冷凍食品コーナー

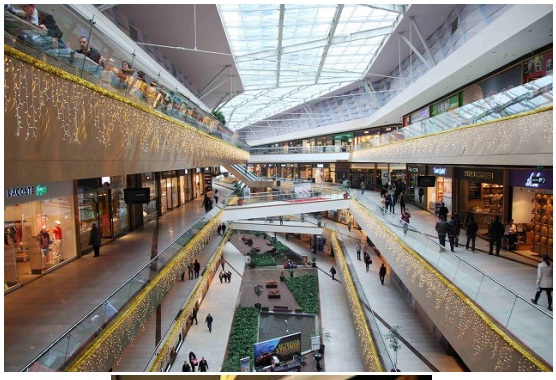

写真 18　地元マーケット（魚は切り身にせず販売される）

7. 娯楽

トルコ国内の旅行地は非常に恵まれているし、欧州へのアクセスは良い。旅行を娯楽だと思えば、非常に恵まれている。また、イスタンブール市内では釣りをできる場所があり、家族連れにも人気である。一方、ゴルフ場はイスタンブール近郊の 2 ヵ所に留まる。

写真 19　イスタンブールにおける娯楽の例（釣りやクルージングなど）

8. 地方都市での生活

大都市と地方との格差は大きく、地方に駐在する場合には、保守的な要素（女性のスカーフ、禁酒など）が強まるので、生活スタイルには留意する必要がある。酒類を入手できる場所は限られる。また、独身者の場合、女性と交際をする際には結婚することが前提として求められることもある。

生活の利便性から、地方都市に職場がありながらも日本人学校のあるイスタンブールに住み、職場まで片道 1～3 時間かけて通勤している駐在員もいる。

ひとくちメモ 17　駐在員の生活拠点：不動産賃貸の状況

トルコにおける不動産事業者としては、スターツ社（Starts Istanbul Construction Real Estate Consultancy & Trade Co., LTD.）が日本語・英語にて駐在員向けの住宅・短期サービスアパートメントをはじめ、オフィス・短期サービスオフィス・店舗などの仲介を行っている。

スターツ社によれば、イスタンブールの主な駐在員向住宅街は下記地域があげられる。

（出所）スターツ社　ウェブサイトより引用

- Etiler（エティレル）/Ulus（ウルス）
  - 日本人学校がエリア内にあり、子息帯同の駐在員の多くが居住。
- Levent（レベント）/4Levent（ドルト・レベント）
  - 高層マンションに、配偶者帯同者・単身者が多く居住。
- Sisli（シシリ）/Osmanbey（オスマンベイ）/Fulya（フルヤ）
  - コンパクトな間取りをもつマンションが多い
- MASLAK（マスラック）
  - オフィス街やシェラトンホテルに加え高級ショッピングセンターが近接
- Atasehir（アタシェヒル）
  - アジア側にオフィスや工場がある主に単身者が中心

住宅は主に複数棟の低層住宅から構成されている「シテ」といわれる住宅と、タワーレジデンスが中心である。契約は 1 年契約が中心でその後自動更新となる契約形態が多く、2 年契約もあるとのことである。

ひとくちメモ 18　治安状況

2007 年以降、トルコ警察は犯罪統計を公表しておらず、最新の統計データは 2006 年中のものであるが、同年中に発生した一般犯罪は約 78 万 5,000 件で、うち窃盗事件が約 35 万 1,000 件と最も多く、全体の 44.8%を占めている。また、凶悪犯罪では、殺人が約 2,600 件及び強盗が約 8,900 件発生している。日本の人口 10 万人当たりの発生件数と比較すると、凶悪犯罪（殺人、強盗）の発生率は日本の 3 倍以上となっており、我が国外務省は「十分注意する必要がある」との指摘をしている。

また、内戦状態が続くシリアとの国境付近においては、シリアからの砲弾等の飛来により死傷者の発生や物的損害等の被害事例も見られる。このため、外務省はシリア及びイラク国境地帯について、「渡航の延期をお勧めします。」、ハッカーリ県、シュルナク県（イラク国境付近を除く）について、「渡航の是非を検討してください。」との勧告を行っている。

一方、本調査でヒアリングを行った駐在員によれば、治安面につき大きな問題に直面したという声は聞かれなかった。ある駐在員によれば、数字だけをみると東京と比べて 2～3 倍程度の犯罪件数があるが、特定地域に集中しているため、駐在員の住宅近隣では殆ど問題ないとのことである。また、他の駐在員についても、犯罪の発生しやすい地域に立ち入ることさえしなければ、被害にあうことは稀であるとの意見が寄せられた。事実、在トルコ日本大使館も、2013 年 4 月には「トルコは比較的治安もよく、日本人が生活する上で安全面の心配はあまりないと言われています。」という見解を外務省の海外安全情報ページにて示している。

ただし、トルコ日本大使館は日本人が実際に被害にあった事件として、盗難、すり、ひったくり、ニセ警官による金品詐取及び強盗、路上強盗、詐欺、暴力バー、性犯罪等の事例を紹介しており、一見して外国人と分かる日本人は、犯罪のターゲットとなり易く注意が必要という注意喚起を行っている。

総じて言えば、駐在員は治安の良好な駐在員向け住宅街に居住するとともに、犯罪多発地域に関する知識を身につけ、犯罪多発地域に立ち入らないようにし、普段の基本生活においても注意を行わないようにすることが重要であると考えられる。

なお、治安に関する情報については、刻一刻と変化する者であるため、外務省の海外安全情報ページを参照するとともに、現地のニュースや新聞等も確認することが重要である。

ひとくちメモ 19　世界三大料理のひとつ、トルコ料理と食事事情

トルコ料理は世界三大料理のひとつとされる。ケバブ料理、煮込み料理、ヨーグルト、豆のペースト、トルコ風のパン、餃子風の料理などは、東はモンゴル、ロシア、中央アジアから、インドやパキスタンなど南西アジア、中近東、東ヨーロッパを経てエジプトなどの北部アフリカまで、広範囲で見られる。日本では中華料理やイタリア料理と比べるとマイナーな印象もあるが、世界的に見ればその影響範囲は広く、まさに三大料理と呼ぶにふさわしい。

イスラム教徒が多いため、豚肉は使わず、肉類はマトン（羊)、牛、鶏が中心である。日本人の味覚にも合いやすい味つけではあるが、マトンや脂っこい料理は、なじまない人もいるかも知れない。

イスラム教徒が多いものの、アルコールについては比較的寛容で、水と混ぜると白く濁る、ブドウから造られた蒸留酒「ラク」はトルコ原産である。地元産のビールもある。豚肉は食べなくてもアルコールは飲む、というトルコ人は少なからずいる。

自国の料理があまりにも偉大であるからか、一般的にトルコ人は食に関して保守的であると言われている。新しいレストランができても、最初のうちは物珍しさで食事をしても、なかなか定着しない。このため、トルコ料理以外の良いレストランを探すのは難しい。豚肉を基本的には食べないことから、中華料理もあまり流行っていない。日本料理も、トルコ人にとっては味付けが薄く感じるようで、イスタンブールでもまだ広く認識されているのは数軒程度である。

日本人の駐在員としては、本格的に日本の食材を買おうと思うと、西欧の国まで買い出しに出かけなければいけない。大都市でもそのような状況であるため、地方にいくとさらにトルコ料理以外のものを口にするのは難しくなる。

世界的に日本食は健康食としてブームになっているが、トルコで日本食がブームになるまでには、まだ時間がかかりそうだ。

ひとくちメモ 20　トルコの日本人学校

駐在員にとって重要な生活環境の一つは、子弟のための学校であろう。日本人学校は、イスタンブールの欧州側に 1 校あり、生徒数は約 70 人である。送迎バスも運行されている。

イスタンブールとその近郊に会社のある企業の場合、学齢期の子どもがいる社員の場合は、欧州側に居住することが多い。ある企業のイズミットで勤務する従業員の場合、子どもの通学のためにイスタンブールに居住し、イズミットまで毎日 1～3 時間かけて通勤している人もいるという。

イスタンブールにはこのほか、補習校があり、毎週土曜日の午前中に授業が行われている。補習校も 70 名前後の生徒が在籍している。

一方、首都のアンカラには現在、日本人学校はない。アンカラ在住の就学年齢児童は 100 数十人程度と、イスタンブールと同程度にまで増えてきているとみられ、現在、補習校の設置を、大使館も含めて検討しているところである。

その他には、インターナショナルスクールがあるものの、学校によっては定員が埋まってしまっていて、待機せざるを得ない場合もある。